いずボラ通信

No.１８９　　令和２年１１月１日
発行　環境学館いずみボランティア

～環境学館いずみボランティアスタッフによる「いずみガイド」～

１０月のデキゴト

10 月 11 日(日) 10:00～12:00　いずみ自然塾　「飯盛川の保全活動」

１．テーマ・開催場所等

1)テーマ

飯盛川の保全活動

2)開催場所

今年度 6 回目(内 2 回は中止)のいずみ自然塾は、新型コロナウイルスの感染予防の為、集団行動を避け「環境学館いずみの学習室」での開催となりました。

3)講師

講師は、鶴ヶ島市職員の永井昌和 氏 です。(以下永井さんと記す。)

4)受講者

受講したのは、いずみ自然塾のメンバー30 名です。

ボランティアのメンバーも参加しました。

2.概要（次項以降と重複）

2.1　今回の主題である、飯盛川の流域の「高倉地区のふるさとづくり」に、鶴ヶ島市の職員として 2007 年(H19)～2011 年(H23)の間担当されました。

2.2「飯盛川ふるさと水辺復活プロジェクト」の活動について、永井さんの経験を基に詳しく紹介していただきました。

単なる活動紹介というのではなく、困ったこと、工夫したこと、困難を乗り越える為に行ったこと等の”現場密着”の紹介です。この活動の根底には、永井さんの、「地元を大切にする」暖かい気持ちがあると思います。

1) 鶴ヶ島市、高倉地区について

「農村の原風景」が市内で唯一残っており、また歴史的・文化的にも貴重な地域である。

従来から「高倉ふるさとづくり会」が組織され、ふるさとづくりが進められていた。

2005 年(H17) に「ふるさとの郷構想」が策定されたのを皮切りに、「高倉ふるさと協議会での活動」「ふるさと水辺整備計画策定」「用地買収・河川改修工事」、そして 2014 年(H26) 「護岸等植栽」により、”高倉地区のふるさとの郷”が甦った。

2)事業

2008 年(H20)に、高倉ふるさと協議会を発足して活動を始めた。

担い手は地元の方と環境団体である。

「生きもの探し隊」「西中学校総合学習」など、精力的に活動した。

課題として、「知識と経験不足」「地元の協力が得られない」があった。

2011 年(H23)から「高倉ふるさとづくりの会」で再スタートした。運営は「地元の方中心」「環境団体が協力」の形とした。

(従来の同列から、地元中心に変更)

更に、専門的知識不足を、経験豊富な「グランドワーク三島」に委託した。

施工計画に際し、イメージを考えた。

・本来の自然環境、景観再生　(現況を生かす)

・洪水時に大断面を確保する　(治水機能を確保)

・人が集まる場所とする

3)河川改修工事

まず水路を迂回して、飯盛川を埋め戻し、続いて新たな川の線形を描いて掘削した。

4)自然再生

野生種の川ガキもすっかり定着した。

また、現況の湾曲した水路線形を生かして整備すると共に、水衝の左岸は石で護岸した。

5)水辺整備の現状と維持管理

水辺整備後、少しずつ「川の性格」が表れ、日々変化を続けている。

このまま、自然の変化を許容しつつ、最小限の整備と工夫を加えていくのが望ましい。

6)今後の提案

・今は「点」となっている整備済み区域を中心に、生態系の拠点を「線」でつなげる。

・飯盛川の PR とイベント(小中学校の教育機関、ボランティアとの連携)

・人を呼び込む

2.3 受講者からの質問と回答

永井さんからの説明が終わった後、受講者からの質問を受けてもらいました。

永井さんの回答は、是非読んでいただきたい内容です。

（写真１　講座の様子）

3. 説明の項目　（項目の*斜字部*と No.は筆者が追記）

飯盛川ふるさと水辺復活プロジェクト

1)鶴ヶ島市、高倉地区について

・鶴ヶ島市及び事業施行地の概要
・飯盛川を中心とした高倉地域の沿革
・高倉地区・結の力
・高倉地区飯盛川の変遷
・昭和 54 年河川整備前の地図
・昭和 56 年河川整備時の地図(現在の形となる)
・甦る大地　高倉土地改良記念碑
・心動かすもの

2)事業

(1)事業の経緯 1

・ふるさとの郷構想

(2)事業の経緯 2

・ふるさとの郷構想の実現に向けた戦略の変遷
・生きもの探し隊・西中学校総合的学習の時間
・ワークショップとプラニング　・高倉ふるさとづくり通信
・今回整備対象エリア
・施工計画・イメージ
・意見交換後の検討案 1 植栽追加)
・飯盛川「ふるさと水辺整備」工事の計画と設計
・飯盛川　整備計画概要

3)河川改修工事

・河川改修工事①　水路の迂回、飯盛川の埋め戻し
・河川改修工事②　新たな川の線形描き、掘削
・計画時・イメージ

4)自然再生

・自然再生 1 ,2,3,4

<飯盛川(いいもりがわ) ビデオ>

5)水辺整備と維持管理

・水辺整備の現状と維持管理

・ビオトープ内の整備
・洗堀される河床の保護

6)今後の提案

4.説明内容のポイント等　(4 項の項目に対応して記載)

永井さんから詳細に説明していただきました。そのポイントを以下に記載します。

1)鶴ヶ島市、高倉地区について

・鶴ヶ島市及び事業施行地の概要

鶴ヶ島市は坂戸市の南に位置する。

高倉地区は、鶴ヶ島市の西部で坂戸市にも近い。

(写真 2　鶴ヶ島市と近隣自治体)

(写真 3　鶴ヶ島市　高倉地区)

・飯盛川を中心とした高倉地域の沿革

【高倉地区とは】

・都市化の進展する中で、「農村の原風景」が市内で唯一残る。
・江戸時代の農村・新田開発の形態が残り、市内で唯一獅子舞が伝わるなど歴史的・文化的に貴重な地区。
・自治会員全員を構成員とする「高倉ふるさとづくり会」が組織され、ふるさとづくりが進められている。

(写真 4　高倉地区に伝わる獅子舞)

【高倉地区の飯盛川】

・1981 年(S56)高倉地区土地改良完了
　耕地を水田から畑へ転換
・2005 年(H17)　「ふるさとの郷構想」策定
・2008 年(H20)　　高倉ふるさと協議会発足(2012 年 3 月解散)
・2011 年(H23)　「ふるさと水辺整備計画」策定
・2013 年(H25)　用地買収・河川改修工事
・2014 年(H26)　　護岸等植栽

・心動かすもの
　昔(川がコンクリートで固められる前)は、川にウナギやナマズがいた。
　また、川辺にはホタルも飛んでいた。

(写真 5　昔の川辺の風景)

2)事業

(1)事業の経緯 1

・2005 年(H17)に、ふるさとの郷構想を策定した。

(2)事業の経緯 2

・2008 年(H20)に、高倉ふるさと協議会を発足して活動した。
担い手として地元の方と環境団体として、定期的に会合を開いて進め方を検討した。
活動としては、「生きもの探し隊」「西中学校総合学習」など、子供も参画しての催しも行った。
ただし、「多様な団体をまとめる豊富な知識と経験が不足している。」
「地元に活動が伝わらず、なかなか協力が得られない。」といったが課題があった。

（写真６　生き物さがし隊）

（　写真７　西中学校総合的学習の時間 ）

・2008 年(H23)～
高倉ふるさとづくりの会で、地元の方を中心に、環境団体が協力する形で運営した。(従来の同列から、地元中心に変更)
専門的知識不足を、経験豊富な「グランドワーク三島」に委託した。
三島市視察も行った。
活動内容は、「高倉ふるさとづくり通信」で発信に、高倉地区には全戸に配付した。

（写真８　ワークショップとプラニング）

（写真９　今回整備対象エリア）

・施工計画・イメージを、「どんな川にしたいか・・・」皆で話し合った。

・本来の自然環境、景観再生　（現況を生かす）
・洪水時に大断面を確保する　（治水機能を確保）
・人が集まる場所とする　　（水辺へのアプローチを容易に）

（写真 10　今回整備対象エリア）

3)河川改修工事

河川改修工事①として、工事区間の水路の上流と下流を堰き止め、水路　を迂回させた。

そして、従来の水路をいったん埋めた。(この話を聞いて筆者は”ここまでやるのだ!”とびっくり)

(写真 11　従来の川の上・下流を堰き止め)

(写真 12　従来の川を一旦埋める　)

続いて河川改修工事②として、新たな川の線形を描いて掘削した。

(筆者の感想として、改めて川をつくっていく感じ)

(写真 13　新たな川の掘削)

4)自然再生

野生種の川ガキもすっかり定着した。

現況の湾曲した水路線形を生かして整備し、水衝部の左岸は石で護岸した。

（写真 14　整備前）

（写真 15　整備 7 か月後）

5)水辺整備の現状と維持管理

水辺整備後、少しずつ「川の性格」が表れ、日々変化を続けている。

このまま、自然の変化を許容しつつ、最小限の整備と工夫を加えていくのが望ましい。

・「流下物で閉塞」「土砂堆積」「イネ科の植物が繁殖」の場所あり

・建設後の降雨集中で短期間に土砂が堆積し、流れが平坦になっている。

・小河川、排水路の特徴であるが、降雨による水位変化が激しく河床洗掘が起こり易い。

6)今後の提案

・今は「点」となっている整備済み区域を中心に、生態系の拠点

地を「線」でつなげる。
・飯盛川の PR とイベント(小中学校の教育機関、ボランティアとの連携)
・人を呼び込む

5.受講者からの質問(Q)と回答(A)

永井さんからの説明が終わった後、受講者からの質問を受けてもらいました。
質問に対する永井さんの回答は、説明資料だけでは表せない思いが溢れ出る内容でした。出来るだけ永井さんのご回答内容のままに以下記載させてもらいました。

Q1.河川改修工事の時に、「川の上流と下流を堰き止め、水路を迂回させて、従来の川は一旦埋める」ため、「生き物も一旦移し、改修後に戻した」とのことだが、生き物は元の状態になったか? 更に増えたか?
→A1.殆ど元に戻った。エビの種類は増えたが、全体としては増えてはいない。特に、魚は増えていない。特別に何かしないと増えないようだ。

Q2.高倉地区に市民農園があるが、誰の土地でどういう人が借りているのか?
→A2.高倉地区の農家の土地を、市が窓口となって一般の人が借りている。
新規の農業をやるというのは手続き含め簡単ではない。
そういった点では、農地の有効活用も含め、一般の人に貸すというのは良いことである。借りている人は、鶴ヶ島市民だけでなく、市民以外の人(東京の方)もいる。また、農機具の貸出もやっている。

Q3. 「鶴ヶ島市高倉地区の飯盛川改修」の、素晴らしい話に感動した。鶴ヶ島市では住民と市の職員のコラボで「夢を実現」されているのに、同じ流域である坂戸市の飯盛川は、フェンスに囲われていたりと「川辺を愛でる」ところがないし、良くしようといった計画もない。(下水が整備され、水は前よりきれいにはなった)
是非、素晴らしいご経験を生かし、坂戸市に「良くするプラン」を説明してもらえないか?
→A3.私は行政に所属しながら、市民と一緒になってやってきた。
県が主導して、日高市の高麗川の改修を地元の人が知らないまま進められたことがあった。
地元の人からすると、「人工物の歩道は作って欲しくない」と思う。
地元に住んでいる人は、一般的に「そこまでやって欲しくない」との気持ちの人が多い。ただし、それほど川に興味がなく、無関心のまま「行政の流れを止められない」ことが多い。
工事が始まると、業者に工事区間を分割して発注されるので、各

工事業者は自分のところの”利権”と”失う物”を量りにかけて工事する。(要は、”自然を守る”ことに関心がない)

「無関心は良くない!」との思いで、まず「川歩きから始めた」という方もいる。「一歩一歩、できることからやっていく」ことである。

年配の方で、自然を守る活動をされている方に、企業のOBの人が多い。

現役の頃には、「工場設置で山をひとつ潰してしまった」等の自然破壊の反省もあって、自然保護の活動をしたいとの思いである。

(いろいろインフラも整備されてきたので、)今道路や水道をやる時ではない。「自然を残していく」ことをやるべきである。

人それぞれ、人生の楽しみ方がある。旅行をするのもいい。

自分は、「振り返った時に、何が良かったか」を考えてみると、「困難に立ち向かっていく」ことではないかと思っているし、幸運にもそんな仕事に携わることができた。これからもその思いでやっていきたい。

今日この講座に参加されている方は、自分より歳をめされた方が多いように見受けるが、まだまだ「若い」。皆さん、一歩一歩でも、自然を守ることをやって欲しい。

Q4.自然再生したあとの維持管理が大変であり、レンジャーと連携して進めているが、他にどういったところがあるか?

また、維持管理は重労働だが、地元の方もだんだん高齢化すると思うので

若い方ができるような取組みは?

→A4.レンジャープロジェクトには、「大学の方」「企業の社員向けのイベントで“畑をやりたい方”」等、この地域に延べ20人ほど入っている。

「環境保護に貢献しよう」という企業が増えており、利用したらいい。

高倉地区に移ってきて、10町くらい借りて農業をやり出した施設もある。

(地元だけでなく、外部からも来ている)

Q5. 他の自治体でも、自然再生をしているところはあるか?

→A5.行政の財政は限られており、使い道も学校関係等どうしても必要なところもある。

予算をカットしようとすると、まず環境対策や文化面が対象となってしまう。

「環境対策はやってもやらなくても・・・」と安易に考えがちだが、10年～20年後の為には、自然を残していく取組みを継続し

てやっていくべきである。
　今は新型コロナの感染防止の為、他の予算は絞られがちだか、
「環境保護の取組み」の機運は盛り上がっていると思う。

6. 最後に

講座が終わってから、参加者から、「素晴らしい内容だった」「感激して涙がでてきた」といった声が聞こえてきました。

記： KI